

仙台YMCA

みつかる。つながる。よくなっていく。

No.343.2022



仙台青年

SENDAI YMCA NEWS

9

2022年9月20日発行

公益財団法人仙台YMCA
〒980-0822
仙台市青葉区立町9-7
Tel 022-222-7533
Fax 022-222-2952
www.sendai-ymca.org
発行人 / 村井伸夫
編集人 / 松島見子



9月年長組キャンプ

9月3日～4日に年長組の子どもたちが秋保二口キャンプ場でキャンプを行いました。あいにくの雨模様でしたが、子どもたちはそれでも元気いっぱいに過ごしていました。

私たちはキャンプの導入をとっても大切にしています。導入の初めは職員が遊びに行ってきたという話をします。そうすると、子どもたちは「自分たちも行ってみよう！」という気持ちになります。そこからたくさん遊べるように泊まってみると良いのではないかとということになり、持ち物やどんなことをして過ごしたいか、キャンプファイヤーで行うスタンツなども全て子どもたちと話し合っていて決めていきます。約1か月かけて導入したので、泊まることに不安な子どもたちも当日までには楽しみにすることができました。

当日は、キャンプ場に着くとすぐにカナヘビやバッタがいて大喜び、大慌ての子どもたちでした。クワガタやカエルもいて普段行く公園にはない生き物にも触れることができました。自然の中で思い思いの遊びを楽しむ子どもたちの目がキラキラ輝いていました。





お腹をペコペコにした子どもたちは、夕飯のカレーを何度もおかわりするほどたくさん食べました。

子どもたちがとても楽しみにしていたキャンプファイヤーは少し雨が降っていましたが、行うことができました。どんどん燃える火を見つめながら、「みんなの心だね」と呟いていた子どももいました。しばらく火を静かに見つめる時間が流れました。空にどんどん燃え上がる炎は子どもたちの心の中に残ったことと思います。

夜はお家の人に会いたくて泣いてしまう子もいましたが、何とか一泊できた子どもたちの朝の顔はとても自信に満ち溢れていました。

現代はバーチャルの世界でも虫を飼ったり、探検したりできるゲームなどがあります。そういう空想の世界ではなく、五感を働かせながら本物の自然を感じる体験をこれからもたくさんして欲しいと願っています。

(報告：仙台 YMCA 幼稚園：高橋祐子)

Report 仙台YMCA国際ホテル専門学校

『ツーリズムデザイン校外学習』 小林 尚美

国際おもてなし科では、現在25名の留学生が日本のホテル&観光ビジネスについて学んでいます。1-2年生合同の「ツーリズムデザイン」では、自分たちで観光地を調べ、ツアーをプランニングして、実際に体験し、それを発信する授業をしています。

みんなで相談し、今回のツアーは、おとなりの岩手県に決定！世界文化遺産の中尊寺を中心としたエリアのツアーとなりました。中尊寺金色堂、厳美渓でかっこう団子、狛鼻渓で川下りなど見どころがもりだくさんです。授業では、グループに分かれてそれぞれ観光スポットを調査し、1冊のオリジナルガイドブックを作成。それを持って、一日かけてのツアーです。もちろん、コロナウイルス感染防止の対策もバッチリです。(旅行では、これがとても大切なことです！)

行く先々で、すてきな出会いや、新しい発見があり、ガイドブックやインターネットではわからなかった感動をたくさん経験することができました。

ツアー終了後は、それをSNSで発信しました。すると、世界中から"like"がたくさん！東北の魅力の世界中に発信できたと思います。さて、後期はどこに行こうか・・・？後期も、留学生の目線から、東北の観光地を世界中に紹介していきます！！



仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。
喜びのある生き方をすすめます。
私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。
世界平和の実現に努めます。
私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人のかかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を拡げます。
子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

「私の大学生活」

ボランティアリーダー：越前千菜さん（東北大学4年）

大学1年の4月、私は小学校の先生になりたいという子どもの頃からの夢を捨てきれないまま、小学校教員の免許が取れない東北大学のキャンパスにいました。コロナの予兆すらなかったその頃は、新歓を行う団体で大学は賑わっていました。私も履修相談に乗ってもらうためだったり、友だちの付き合いだったりいくつかの部活やサークルを覗きましたが、どれもピンとくるものはなし…。これからの大学生活をどう過ごすか、途方に暮れていました。YMCAのピラをもらったのはそんな時でした。「水泳」「子ども」この2つのワードに惹かれ、説明会に1人で参加しました。

YMCAの先輩方はとても優しく、その温かい雰囲気は素敵で活動を続けたいと思いました。実際に触れ合う子どもたちは、素直で、無邪気で、本当にかわいかったです。7つ下の弟が生まれた時も、職場体験で幼稚園に行った時も、周りの目を気にしてできなかった「自然体で素直に子どもに愛を伝える」ということが、YMCAにいるとできていました。子どもたちとの活動は本当に楽しみで、「学生ボランティア」とか「大人」という立場を忘れて、子どもたちと同じくらい夢中になった活動がたくさんありました。

YMCAに出会ったあの日から3年以上が経ち、就職活動のため、大学生活を振り返ってみると、驚くほどYMCAでの思い出でいっぱいでした。学生リーダー主導での企画を任せられたこと、子どもとうまくコミュニケーションが取れなかったこと、もっと多くのリーダーを集めるにはどうしたら良いかと悩んだこと…。大学時代の私を作ったのは、間違いなくYMCAでの経験とそこで出会った人々です。目を輝かせてYMCAに来る子どもたち、いつも支え合い、悩みを話し合った同期・先輩・後輩のみんな、私が困っている時、どんなに忙しくても手を止めて真剣に話を聞いてくださるスタッフの皆さん。そのほか、保護者の方やワイズメンズクラブの方、地域の皆様などあげたらキリがありません。この感謝の気持ちを行動で返せるように、私に残された半年間を子どもたちのため、YMCAのために全力で駆け抜けていきたいと思います！



YMCAと私

日吉台児童クラブ

「YMCAと我が家のつながり」

安井悠悟くん・一乃さんのお母様/安井可奈さん

我が家が児童クラブの利用を始めて7年目に入りました。長女は中学生になり、今は3年生の次女と2年生の長男がお世話になっています。この7年の間に子どもたちを取り巻く環境は大きく変わり、特にコロナウイルスによる子どもたちの日常の変化は大きく、それに伴って各家庭から求められる要望もより様々だったと思います。そんな状況下でも、いつも同じように子どもたちを迎えて下さり、子どもたちが子どもらしく過ごすことが出来たのは、永らく児童教育に携わってこられたYMCAの為せる業だったのではないかと考えています。午後3時頃になると、子どもたちが児童クラブへ帰宅したと、私のスマホへお知らせが入ります。これはこの春から導入されたアプリを利用したもので、これまで紙で提出していた利用スケジュールの管理や児童クラブからの連絡の確認、そして子どもたちの児童クラブへの入退室の状況までスマホで確認出来るようになりました。子どもたちの安全の確保はもちろんのこと、保護者の負担まで配慮していただき、とても感謝しています。「アイドルになりたい」と、お友だちとアイドルグループを作った次女たちのファン第一号にリーダーがなってくれたと嬉しそうに帰ってきた次女。毎日、居残り三昧の長男の帰りを今か今かと待って下さるリーダー方。「今日は早いな」と、昇降口から出てくる姿を確認しても、目と鼻の先にある児童クラブまで30分かかかる日もあるらしい長男。自宅でも出来る姉弟喧嘩を、児童クラブでもお披露目してくる我が子たちの仲裁までしていただいて感謝でいっぱいです。そして「児童クラブのクリスマスはホームアローンを見るんだよ。」と懐かしそうに話す長女を見ると、児童クラブで過ごした時間は子どもたちにたくさんの思い出と経験を残しているのだと感じます。一番キラキラしている小学生時代をYMCAのリーダー方と共に過ごすことは、とても有意義なことと思います。それは子どもたちだけではなく、保護者にとっても多くの子どもたちを見てきたYMCAのリーダー方のアドバイスや「大丈夫。」と言ってもらえる環境は貴重であり、大切な場所であると思います。



毎年恒例

じゃがいも・かぼちゃ・たまねぎ販売

限定 330 箱

じゃがいも：80 箱
かぼちゃ：70 箱
たまねぎ：80 箱
3 種詰め合わせ：100 箱

仙台 YMCA 国際・地域協力募金特別プログラムとして、北海道、十勝の大地で採れたじゃがいも・かぼちゃ・たまねぎを販売します。じゃがいも「農林 31 号」は、他の品種に比べ病気に強く、農薬の使用が少なく、煮崩れしにくいです。「かぼちゃ」は、栗のように甘く、口の中でホクホクと崩れる食感が特徴です。また、今年は玉ねぎ (10kg) の販売も行います。旬の美味しさをぜひお試しください！この販売の収益金は、東日本大震災被災地支援、仙台 YMCA 子ども支援プログラムなど様々な社会活動に役立てられます。

皆さまのご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



注文フォームはこちらから

【申し込み方法】注文用紙に必要事項を記入して立町会館受付または仙台 YMCA 各施設にご提出いただくか、インターネットの注文専用フォームよりお申込み下さい。

【支払方法】商品受け渡し時に現金でお支払いください。

【受け渡し日】10月12日(休)以降

Column

第25回チャリティゴルフ実行委員会

第25回チャリティゴルフ実行委員長
仙台ワイズメンズクラブ 永井孝憲 さん

第25回チャリティゴルフ実行委員長を仰せつかりました、仙台クラブ・永井孝憲でございます。微力ではございますが精一杯務めさせていただきます。第11回大会から3回目の委員長となります。当時は支援先の選定、寄付をさせていただき打ち合わせをはじめ作業が盛りだくさんでしたが今回は支援先の固定化と職員の方の素晴らしい活躍のもとスムーズに進めていただいております。皆様に感謝申し上げます。

今年も水難事故により多数の命が失われました。来年以降、一人でも多く救われるよう YMCA と協力して事業達成に向け努力したく思っております。ゴルフをされる方が少なくなりつつある昨今ですが毎回盛大に開催できることにも感謝しつつ参加者募集と協賛品の募集に最後まで尽力させていただきます。今年も楽しい大会にしていけますよう皆様のご協力をお願いいたします。



<報告>

ウクライナ支援協力募金

第1次ウクライナ緊急支援募金に続き、第2次ウクライナ緊急支援募金として多くの皆様から**468,288円** (9月15日現在) をお預かりすることができました。誠に感謝申し上げます。一刻も早い紛争の終結と皆様からお預かりした募金が傷ついた方、亡くなられた方、大切な人や物を失われた方を支える一助となることを願うばかりです。皆様からお預かりした募金は全て日本 YMCA 同盟に送金させていただきました。この募金は、ウクライナ避難民の支援を始め紛争に遭われた方々を支える様々な活動に使われます。支援活動については日本 YMCA 同盟の特設サイトをご覧ください。感謝と共にご報告させていただきます。誠にありがとうございました。



こちらからご覧いただけます



日本YMCA同盟
ウクライナ緊急支援
特設サイト

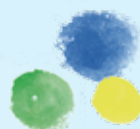
(7月16日～9月20日)

維持会費

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

◆一般会員
維持会員A

小林 正一 さん



一般会員・サポート会員を
随時募集中です

ぜひ会員として、

仙台YMCAの活動をお支えください
お問い合わせ：本部事務局

TEL:022-222-7634

FAX:022-222-2952